



103

あさじ いなずま はな まる も とういしょう
浅地稲妻に花の丸模様衣裳

絹、大模様

18-19世紀

丈127.0×裾56.0 cm

沖縄県立博物館・美術館

Bingata costume with design of lightning with flower circle patterns on light indigo ground, silk

18-19th century

127.0 x 56.0 cm

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

地模様稲妻に梅を配し、菊、牡丹、菖蒲、水仙と椿、梅、薔薇の花の丸を染めた作品。稲妻は、まず藍染めし、糊を落として再度、黄色で地染めをしている。稲妻模様は「ガンジ型」と呼ばれ、成人前の童子が着用したと言われる。この衣裳も、袖が長く振りのある子ども衣裳を仕立て直した様子が見受けられる。裏布の赤い衿が衣裳を引き締めている。(YI)



74

うすみずいろ じ はな まる さくらかえでちん も とうどっじん
薄水色地花の丸に桜楓散し模様胴衣

絹(縮緬)、片面染カ、大模様-大柄、白地型

19世紀

丈88.0×裾61.0 cm

沖縄県立博物館・美術館

Bingata dujin (undergarment) with design of flower circles with scattered cherry, maple, patterns on light aqua blue ground, silk (crape)

19th century

88.0 x 61.0 cm

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

牡丹、梅、菊、菖蒲の花の丸文が規則的に並べられ、そのすき間に楓と桜があしらわれた、花尽くしの代表的な作品である。淡い水色地に加えて丸文の中も淡桃色、淡黄色、淡青色が配され、溶け合うような柔らかな色使いの地色を背景に、鮮やかな赤や青の草花が絶妙なバランスで彩りを添えている。薄い縮緬地は染色の作業が難しいが、一つ一つの花が丁寧に彩色されていて、特別な一枚であったことがうかがわれる。女性の礼装時の上着の下に身につける胴衣の形に仕立てられている。戦前、鎌倉芳太郎と調査を行った伊東忠太(1867~1954年)のコレクション。(YY)



75

うすみずいろ じ まがき きくはぎさくら も とうどっじん
薄水色地籬に菊萩桜模様胴衣

絹(三本絹)、両面染、大模様-大柄、白地型

19世紀

丈86.5×裾74.5 cm

沖縄県立博物館・美術館

Bingata dujin (undergarment) with design of fence with chrysanthemum, bush clover, cherry patterns on light aqua blue ground, silk (gause)

19th century

86.5 x 74.5 cm

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

白地型で模様を染め、糊を落とし、再度、薄水色の地色を染めた作品。このような地染めのことは、地返し(ジーケーシ)と呼ばれる。絹織の素材は、中国から舶載されたものである。斜めに置かれた籬に菊や萩など秋の草花が表現された、大和的な美しい作品である。地色を薄い水色とすることを決めて染めたのか、白く染め抜く菊、萩、桜のシロジバナの墨の輪郭線が効いている。(YI)

